

レビュー項目 (事業名)	水素社会の実現に向けた普及啓発の推進 (水素社会普及促進事業)				部(局)	企画部	
					所管課	総合政策課	
					担当班	エネルギー・水資源班	
					連絡先	078-362-3294	
開始年度	令和2年度	終了年度	令和32年度	関連計画等	兵庫水素社会推進構想		
事業区分	<input type="checkbox"/> 国補助事業 <input checked="" type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				実施主体等	県	
事業目的	カーボンニュートラルに向けた次世代エネルギーとして期待される「水素」を日常生活や産業活動で利活用する「水素社会」を2050年頃までに実現するため、産学官が連携して水素利活用の普及・拡大や機運の醸成に向けた取組を推進する。						
事業概要	①県内イベントでの水素実験教室や県内企業と連携したパル展示等の開催 ②県民や事業者を対象としたシンポジウムの開催 ③普及啓発コンテンツの制作と発信 ④産学官が参画する「推進会議」や、県内自治体が参画する「協議会」の開催						
これまでの改善状況	①水素実験教室では、水素というイメージが難しいものに対して、参加者と一緒に燃料電池ミカーや水素ケツを使って実験することで、理解が深められるように工夫(R4~) ②将来の水素社会の担い手を育成するため、教育現場等での利用を想定した小学校高学年向け水素エネルギー普及啓発教材を制作(R5) ③会場参加者のライブアンケートを基に登壇者が議論するシンポジウムを開催(R5)						
業務フロー	①イベント・会議の主催等 : 県直執行 ②委託事業(コンテンツ制作、会場設営等) : 県(発注)⇒委託先(受注)						
事業に要するコスト	区 分		3年度決算額	4年度決算額	5年度当初予算額	6年度当初予算額	
	事業費①		4,272千円	3,040千円	6,801千円	5,137千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	2,992千円	924千円	2,882千円	0千円	
		補助金・交付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	1,280千円	2,116千円	3,919千円	5,137千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(1,280千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(特定)	(2,992千円)	(2,423千円)	(6,801千円)	(5,137千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(0千円)	(617千円)	(0千円)	(0千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		5,519千円	4,842千円	6,801千円	5,137千円	
	執行率((①/②)×100)		77.4%	62.8%	100.0%	100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	
		2,468千円	2,477千円	2,586千円	2,616千円		
	職員給与費 a	2,131千円	2,141千円	2,249千円	2,280千円		
	賞与引当金繰入額 b	172千円	175千円	172千円	175千円		
	退職手当引当金繰入額 c	165千円	161千円	165千円	161千円		
総コスト(①+③)		6,740千円	5,517千円	9,387千円	7,753千円		

レビューシート

様式 2

評価	指標名	区分	3年度実績	4年度実績	5年度見込	6年度目標	最終目標【年度】
	価値	成果指標(アウトカム指標)	目標	—	—	40	45
水素関連イベント等来場者の理解度 (「水素に関する理解が得られた」と感じる来場者の割合)		実績(見込)	41	61	59	(65)	【R32年度】
		(単位当たりコスト)	(164 千円)	(90 千円)	(159 千円)	(119 千円)	
指標	活動指標(アウトプット指標)	目標	—	—	—	—	—
		実績(見込)	400	1,600	1,200	(1,300)	
		(単位当たりコスト)	(17 千円)	(3 千円)	(8 千円)	(6 千円)	
目標	達成率(見込)	—	—	147.5%	(144.4%)		
	終期設定	有 (水素社会の実現が見込まれる令和32(2050)年度まで継続して実施)					無
改善基準	成果指標の目標年次の達成率50%未満の場合、事業内容を見直し又は廃止						
自己評価	評価の視点	評価		目標に対する達成状況(総合的評価)			
	<p>○有効性(評価指標に対する実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民ニーズを的確に踏まえた事業か</li> <li>・民間での事業実施は見込めない事業か</li> <li>・指標・目標設定は適切か</li> <li>・活動実績は十分か</li> <li>・想定された成果を達成しているか など</li> </ul>	<p>○R4からイベントバスにおいて、水素実験教室を行うなど、水素に対してイメージを持ち易くなる工夫をしたことで、成果指標に対し、目標を上回る実績が得られている。</p>		<p>○イベントバスでの水素実験教室は来場者にもわかり易いと好評であり、成果指標も目標を上回る実績となるなど、一定の効果が認められる。</p>			
課題・今後の方向性	<p>○効率性(最小のコストで最大の効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改革に取り組んでいるか</li> <li>・コスト削減の工夫を行っているか</li> <li>・ICTや民間活力は活用しているか</li> <li>・受益者負担は適正か</li> <li>・財源確保の工夫を行っているか など</li> </ul>	<p>○インターネット上で効率的に普及啓発を進められるよう、R5にデジタルコンテンツ(動画・デジタルリーフレット)を制作しており、印刷費用等の削減に努めている。</p>					
	<p>課題・今後の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 改善    <input type="checkbox"/> 他事業と統合    <input checked="" type="checkbox"/> その他</p> <p>説明 <span style="font-size: 2em;">}</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4以降は、イベント来場者の理解度が60%程度にとどまっており、来場者の理解が深められるよう更なる工夫が必要。</li> <li>・R5に制作した動画・パンフレットをイベント・教育現場で活用するなど、2050年の水素社会を担う若者への効果的なアプローチやイベント内容の充実・ブラッシュアップ、県内企業・市町との更なる連携を検討する。</li> </ul>						
外部委員意見	<p>・アウトプット指標の「水素関連イベントへの来場者数」は、アウトカム指標とすべき。イベントの周知活動等をアウトプット指標にしているかどうか。</p> <p>・アウトカム指標の「水素関連イベント等来場者の理解度」については、アンケートで「よく分かった」という回答数をもとに算出しているとのことだが、水素について「分かった」というよりも、「興味を持った」という回答の方が重要なので、アウトカム指標を見直してはどうか。</p> <p>・現在、新たなイベント来場者に重点を置いて取り組んでいることは理解できる。一方、一度来場した方にリピーターとして再度来ていただき、理解を深めていただくことも一つのアプローチと思うので、時期が来たらご検討いただきたい。</p> <p>・神戸市でも似たような取組を行っているので、役割分担・連携し、オール兵庫で取り組んで欲しい。</p> <p>・限られた予算の中で、広く周知・啓発することも良いが、興味のある方にフォーカスしてはどうか。例えば作文コンテスト等を行い、理工系に進む余地のある方たちへの顕彰や見学ツアーへの招待等に予算を活用してはどうか。</p> <p>・普及啓発動画については、将来の水素社会が一体どのようなものか理解できる絵を最初に示した方が、子供たちも興味を持ちやすいし、どのように社会が変わるのかイメージし易いと思う。</p> <p>・今後新しく動画を作成する際、ターゲットを考慮して作成すること。例えば、幅広い方々に水素をPRしたいのであれば、今の若者は特にタイムパフォーマンスを重視するので動画は短くすべき。</p> <p>・神戸市で走行している水素バスの中で、水素に関して何か周知やきっかけを作ることができれば良いのではないかと。</p>						
改善結果							